

福祉バスの公約は反故になったのか

町長…暫定的な見直しをしながら実現していく



小玉 勇 議員



ボランティア除雪隊 (北村山高生)

除雪補助額のアップは大変助かった
この冬の豪雪被害は非常な状態であった。補助額2万円から4万5千円と大幅アップとなり町民は大変喜んで居る。次の冬からはどうなるのか。町長 降雪量にもよるが

福祉バスの予算が見当たらないが、選挙公約は反故になるのか。
町長 現在実施中の高齢者タクシー助成額引き上げは、将来循環バス運行への移行も視野に入れ、制度についてしっかりと検討しなければなりません。暫定的な取り組みも必要とは考えますが、まずは町民の理解を得ることが出来る制度の構築を先行していきたい。

再質問 制度構築をするまでは、補助額の見直しや地域の拡大はしないと。町長 制度と平行して検討していくので年度なかばにでも提示したい。

Are We Ready
23年度から小学校5・6年生の「外国語活動」が週一コマ必修となるが、先生、講師の準備は大丈夫なのか。
教育委員長 23年度から「外国語活動」必修を考慮し、すでに21年度から準備を重ねてきた。小学校教員において外国語活動の指導に自信がある教師は3割に満たないとの調査結果があり、当町も指導力向上が急務と捉え、国際理解教育専門員を中心に7回教員研修会を

原則一日当たり1万5千円の二日分、3万円を補助します。もちろん非常に時には5万円となることもありえる。
再質問 高齢化とともに補助金を受ける人数も多くなるが、今後どうして行くのか。
町長 NPO等の組織も視野に入れ考えていきたい。

実施してきた。教育長 これまで以上のカリキュラムを計画しています。具体的には、5・6年生だけでなく英語に親しむ環境づくりを目指し、1年生から4年生まで在任専門員が中心となり指導している。事業時間も従来より2〜4時間増やした内容を計画している。



町長に問う

一般質問に7議員が登壇

町長に対して、一般質問が3月7日・8日の2日間にわたり行われ、福祉バスの問題、小学校廃校の利活用問題、さらには総合振興計画の検証、学童保育実施の問題、農林業の振興策など多岐にわたる町長の考えを聞きました。各議員による質問の内容をご紹介します。

小玉 勇 議員 → P.9
●福祉バスの選挙公約は反故になるのか。
●除雪補助額、次の冬からどうなるのか。
●23年度からの外国語活動の先生、講師の準備は大丈夫か。

星川 久 議員 → P.10
●廃校の利活用に民間業者参入の考えは。
●空き校舎を集合住宅に利用する考えは。
●職人の雇用対策と永久定住者支援は。

遠藤宏司 議員 → P.11
●一中解体で生じた有価物売却益は有益に処理されたのか。
●住宅リフォーム制度で、町独自の助成制度創設の考えは。

関 幸悦 議員 → P.12
●若者向け宅地造成をどう進めていく。
●姉妹都市を締結するなどして交流人口、特産品など物流の拡大をすべきでは。
●農地と森林の荒廃整備の考えは。

青木久子 議員 → P.13
●新設される小学校3校と同時に学童保育所を学区単位に設置する準備は万全か。
●学童保育は北小、南小の空き教室を考えては。

齋藤公一 議員 → P.14
●町の農林業振興策の考えは。
●飼料米栽培に産地資金を活用できないか。
●人口増対策に取り組む考えは。
●産業振興策の実現促進の考えは。

大山二郎 議員 → P.15
●新年度予算に選挙公約をどう反映しているか。
●公約の約束は果たせるのか。
●駅東の開発はどうして行くのか。
●条例を改正して高齢者タクシー券を公平にすべき。
●解体計画の廃校を憩いの場や、学童保育に利用していただけるのか。
●高齢化が進む当町では流雪溝だけでは不十分。もっときめ細かな除雪体制を構築すべきでは。